



2025年8月6日
株式会社デジタルグロースアカデミア

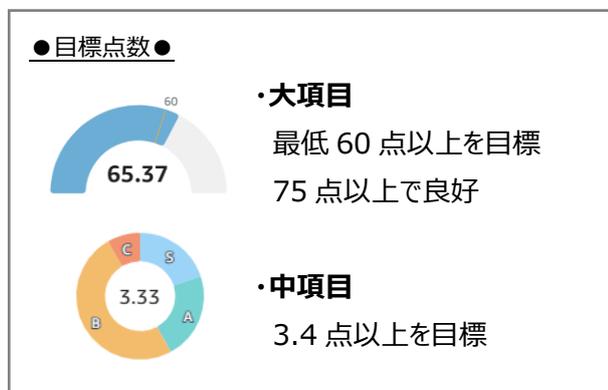
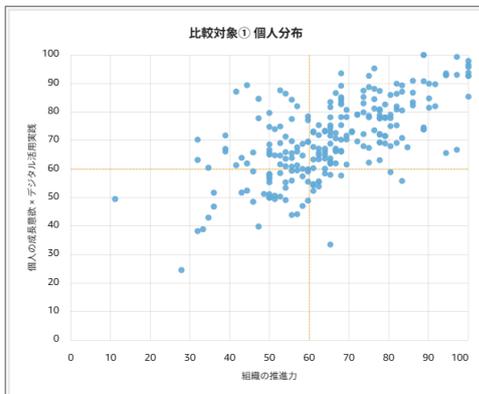
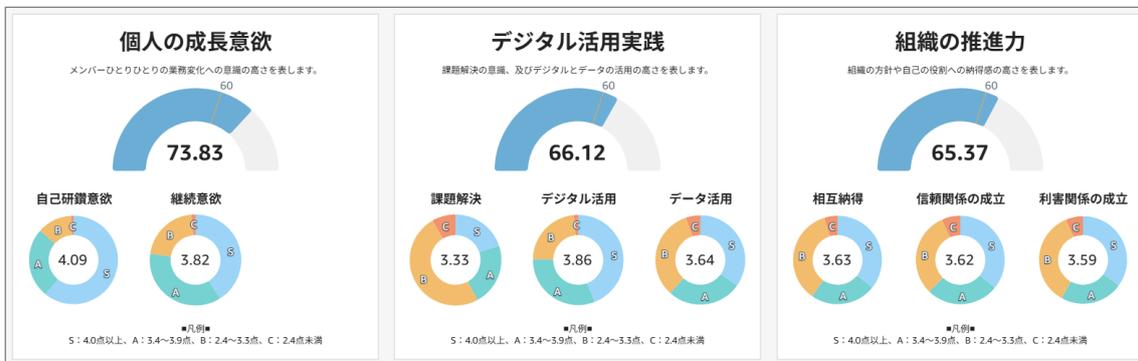
大手企業・中堅企業・自治体の8,000名を対象に実施した 「デジタル活用アセスメント」の統計分析結果とDX推進の課題と示唆を近日初公開 ～アセスメント分析結果レポートの予約受付を開始～

株式会社デジタルグロースアカデミア（所在地：東京都／代表取締役：豊川栄二）は、
2024年～2025年7月末にかけて20以上の民間企業および自治体、累計8,000名に実施した、
「デジタル活用アセスメント」の統計分析結果をまとめたレポートを近日初公開することを決定。
ご希望者向けに本分析結果レポートの予約受付を開始しました。

デジタル活用アセスメントの概要と分析対象

本アセスメントは、社員1人あたり約15分程度で完了するWeb診断形式として開発され、
「個人意欲 × 組織推進力 × デジタル活用」を同時に見える化できる業界初※のアセスメントです。
（※当社調べ）

<結果の見え方：ダッシュボード表示画面から抜粋>



<主な見える化指標>

- 個人の成長意欲・学習意欲
- デジタル活用の実践度・課題解決意識
- 組織的な推進力・組織方針の理解度・納得度

<デジタル活用アセスメントの特徴>

1	回答にかかる時間	約 15 分。時間的な負担が軽い。
2	デバイス	PC でもスマホでも回答ができる。
3	予備知識	デジタルや DX に全く詳しくなくても、誰でも回答できる。
4	結果の確認	部署別・職種別・役職別にグラフ化されたダッシュボードを提供。
5	組織の変化を検証	半年後・1 年後に再実施して PDCA が回せる。
6	コスト負担	「0 円※」から実施できる。（※条件はお問い合わせください）

<分析対象>

2024 年から以下の企業・自治体の 20 以上の組織において実施しました。

- 民間企業：製造業、情報通信業、ホテル業 などを含む、大手企業と中堅企業
- 自治体：人口 2 万人から 10 万人規模の地方自治体

累計回答者数：8,000 名（2025 年 07 月末時点）

デジタル活用アセスメント提供の背景 と 分析結果公開の意図

多くの企業が DX 実現に向け投資や人材育成を続ける一方で、

- 「課題解決が進まない」
- 「中間管理職の動きが悪いのでは？」
- 「部門間で反応が違う」

との声が絶えません。

そこで、デジタルグロースアカデミアは、新しいアセスメントを開発し、個人の成長意欲と DX 推進に必要な組織の力を同時測定できる業界初（※）の設計により、総合的な判断と取り組みを促し、DX が進むことを目的にスタートしました。（※当社調べによる）

2024 年 10 月の提供開始から 2025 年 7 月まで、20 以上の組織と 8,000 名を対象にアセスメントを実施してきました。

Gallup 社が全世界 82,000 の職場単位で行ったメタ分析※によると、部署ごとの「やる気の差」が、生産性や利益に 20%以上の影響を与えると報告されています。つまり、「やる気の差」は単なる気持ちの問題ではなく、業績に直結する経営課題だということが証明されています。

（※出典：「The Relationship Between Engagement at Work and Organizational Outcomes」）

そこで今回、デジタルグローブアカデミアは企業・自治体の組織を横断的にアセスメント分析し、データドリブンな DX 実現に貢献するために、分析結果レポートを近日公開することにしました。

アセスメント統計分析結果（ハイライト）

- ① 個人の成長意欲（自己研鑽、継続意欲）：3.3～3.5 前後
 - ✓ どの組織も概ね高めに出る傾向（目標数値を概ね達成）
 - ✓ 自分への期待・意思表示はある程度ポジティブ
- ② 課題解決、及び 組織方針への相互納得・利害関係に関する指標：3.1～3.3 前後
 - ✓ すべての組織でやや低めに出ている（目標数値の未達が多い）
 - ✓ 特に自治体では低い傾向が顕著

◆ 時間的制約・関心不足による“受け身化”が背景にある可能性が示唆される

成長したい気持ちはあるが、「職場の雰囲気・構造」によって行動が抑制されている。

この“周囲要因のブレーキ”は、Gallup 社の調査にも表れる「職場のエンゲージメント格差」が引き起こす典型的な事象ともいえます。

▶【分析結果レポートの先行予約はこちら】

特に、DX に課題感をお持ちの経営層・人事・DX 推進担当の方々へ

先行予約は[こちらを押す](#)（特典付き）

アセスメント結果から考察する DX 推進の課題と示唆

✓ 組織規模が 200 名を超えると発生する課題

① 組織階層・部署が増えることによって、現場と経営・管理職の間に認識ギャップが生まれやすい
アセスメント結果からも「現場の意欲は高くても、組織の推進力が不足している」、つまり、“もったいない組織”の存在が明らかに見て取れます。

② 信頼関係や相互納得といった“組織風土スコア”が低い傾向になる
200 名を超える規模になると「管理職と現場」「役職ごとの温度差」「全体方針の伝達不足」など、構造的なズレが現れやすくなるのが、アセスメント結果から分かります。
役職別比較・部門別比較による分析では、その傾向が明らかに示されています。

◆ アセスメント実施を推進した事務局さまからの声

- ✓ 「これまで“感覚”で話していた課題を“数値”で語れるようになり、社内の目線が一致しました」
(製造業)
- ✓ 「役職別・部署別にスコアを可視化できたことで、経営層の合意形成がスムーズになりました」
(情報通信業)
- ✓ 「正直ここまで見えるとは思わなかった。他の診断（一般的なサーベイ）では“社員の意識”しか測れなかったが、これは“デジタル活用方針への納得度”や“課題解決の行動への空気”の重さ”も出てくる」
(製造業)

先行予約のお申込み・アセスメント体験お申し込み・お問い合わせ

▶【分析結果レポートの先行予約はこちら】

特に、DX に課題感をお持ちの経営層・人事・DX 推進担当の方々へ

[先行予約はこちらを押す（特典付き）](#)

●予約いただく方の特典(先行予約者 3 大特典)●

※予約受付の〆切=【8月18日まで】 ※すべて無料、予約後の自動メールにて順次ご案内します。

- ① アセスメント結果を活用し DX が進んだ 3 社の成功事例集
- ② 組織の見える化を活かした DX を進めるための施策指南書
- ③ 限定オンラインセッション「分析結果から見た DX の3大ブレーキの実態と対策」(30 分)にご招待

▶その他、お問い合わせの連絡先：

株式会社デジタルグロースアカデミア 広報担当

メールアドレス：marketing@dga.co.jp

■株式会社デジタルグロースアカデミア (<https://www.dga.co.jp/>)

デジタルグロースアカデミアは、2021 年 4 月 1 日に株式会社チェンジと KDDI 株式会社との合弁会社として設立されました。企業や政府官公庁の生産性向上のためのテクノロジー活用および人材育成事業を展開する KDDI 株式会社の子会社であり、DX に特化したコンサルティングおよび人材育成の会社です。

DX の企画、導入コンサルティングからデジタル人材の育成まで、トータルで支援。

自ら DX の現場を持つことで得られた学びをもとにした教育コンテンツである研修やワークショップ・e ラーニングは自治体、民間企業など毎年数万名へ提供しており、DX の加速に貢献しています。

<https://www.dga.co.jp/>

■商標について

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。